

3. 事業実施にあたって工夫した点、苦労した点、立ち上げ時のポイント、問題点等

(1) 留意・工夫していること

- ・ 登下校時の見守りのほかに実施しているパトロールでは、公園のトイレなど人の目が届きにくいところを注意している。
- ・ 決まった（定期）時間帯だけパトロールを行うと不審者も警戒するので、不定期に実施することもある。
- ・ 児童委員・主任児童委員が事件に巻き込まれる危険もあることから、委員全員が教育委員会が経費を負担する「学校支援ボランティア保険」に加入している。

(2) 苦労したこと

- ・ 腕章を作成するまでは黒っぽい服を着用する冬場など、逆に不審者と見られることもあった。（区の助成を受けて「民生委員・児童委員」の腕章を製作・配布）

(3) その他

- ・ 見守り活動実施にあたっては、多くの学校が「学校だより」を通じて、いち早く保護者に児童委員・主任児童委員が見守り活動を行うことを周知した。また、見守り活動開始後になるが、区内全戸に配布する区の広報紙でも区民に同様の周知を行った。

公園など巡回した場所の様子を記録



〈活動の効果〉

- ① 児童委員・主任児童委員の存在をPR
取り組みを通して、地域の方々に児童委員・主任児童委員の顔を覚えてもらうことができた。
- ② 地域に住む児童の顔を覚えることができた。
児童も登下校時以外でも外で会えばあいさつをしてくれるようになった。
- ③ 安全・安心なまちづくりにつながる協働の輪を広げることができた。
・ 民児協がいち早く動き出したことにより、他団体もこれに習い、取り組みを始めた。
・ 区の主導により関係団体による「地域安全活動連絡会」が発足するなど、活動を通して、地域に絆が生まれた。

乳幼児健診の場を活用して親子にアプローチ

兵庫県三田市

地域の状況

- ◆ 兵庫県三田市 人口 114,151 人、世帯数 41,213 世帯（H20 年 12 月末）
- ◆ 小学校 20 校（児童数 7,488 人）、中学校 8 校（児童数 4,226 人）（H20 年 4 月末）
- ◆ 児童委員数 212 人、主任児童委員数 10 人

活動内容等

1. 乳幼児健診時、親子にアプローチする「くつろぎひろば」活動

近年、子育てへの不安感、負担感、孤立感を持つ保護者が増えていることから、三田市民生委員児童委員協議会では支援活動が重要であると考え、平成 16 年度から市の実施する乳幼児健診に合わせて、会場の一角で「くつろぎひろば」を実施している。新生児をもつ親と知り合い、育児の相談やサポート活動を行うため、月 2 回の 4 か月児健診に訪れた親子に主任児童委員が声かけを行っている。初めての子育ての場合、その初期は特にストレスを受けやすく、母親にとって最も不安な時期であり、またそれだけに他者とのふれあいを求める時でもある。

総合福祉保健センターで行う健診には、毎回 30～40 組の親子が訪れる。健診を終えて会場から出てきた親子に主任児童委員が声をかけるのだが、この声かけのタイミングが重要である。健診を終えてほっとしているところに「おつかれさまでした。少し休んで行きませんか」と声をかけ、どのように育児をしているか、育児を手伝ってくれる人はいるかなど、名前を聞かないようにして話を聴く。そして、「何かお手伝いできることや、困ったことなどがあれば気軽に相談してくださいね」と主任児童委員の名簿とリーフレットを渡し、区域担当児童委員・主任児童委員の存在を知らせている。その際、子育て支援活動を実施している施設や、医療機関・スーパーなどの情報提供も行っている。無理には引き止めず、リーフレットを渡すだけの人もいる。

健診では聞けなかったことなどの相談を受けた主任児童委員は、保健師へフィードバックするという双方向の関係を大切にしている。

「くつろぎひろば」では、親子と主任児童委員が知り合うだけでなく、親同士が知り合う場にもなっている。また、地域の外国人には、日本語を学べるサロンを紹介するなど、親子が地域社会へ参加する入口としての役割を担っている。